

福祉サービス第三者評価結果報告書(令和2年度)

2020年 / 12月 / 日

MIRATZ湘南辻堂保育園 殿

郵便番号 110-0016

所在地 東京都台東区台東3-2-5大林ビル2F

評価機関名 有限会社 エテルノ

認証評価機関番号

機構 06 - 169

電話番号 03-5812-0840



以下のとおり評価を行いましたので報告します。

福祉サービス種別	地域型保育事業 小規模保育事業A型		
調査対象事業所名称	MIRATZ湘南辻堂保育園		
事業所連絡先	郵便番号	253-0011	
	所在地	神奈川県茅ヶ崎市菱沼3-1-26 1F	
	電話番号	0467-39-6973	
契約日	2020年	7月	1日
利用者調査票配付日(実施日)	2020年	8月	5日
利用者調査結果報告日	2020年	10月	20日
自己評価の調査票配付日	2020年	8月	7日
自己評価結果報告日	2020年	10月	20日
訪問調査日	2020年	10月	23日
結果合議日	2020年	11月	6日
コメント (利用者調査の工夫点、補助者・専門家等の活用などを記入)	保育園の協力のもと利用者調査用紙を保護者(園児)へ配布して頂いた。回収については、保育園の協力のもと保護者から回収をして頂き、まとめて評価機関宛てに郵送して頂いた。第三者を確保するために、無記名での回収をする趣旨を利用者調査ご協力のお願い文などを別紙に作成し配布した。		

評価機関から上記及び別紙の調査結果を含む調査結果報告書を受け取りました。

2020年 / 12月 / 日

事業者代表者氏名 MIRATZ湘南辻堂保育園 園長



1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>1)未来の希望に向かって発展、向上する明るい元気な子どもを育む 2)心豊かなエコ環境と優しい地域社会に生き生きと共生する子どもを育む 3)みんなを親しみ愛し太陽のように暖かい心を持った子どもを育む</p>
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>（1）職員に求めている人材像や役割</p> <p>①決め付けた保育をせず柔軟に対応し行動が出来る人材。 ②子どもや保護者の立場になって考えられる人材。 ③素直な気持ちで人の話を聞き協力的な人材。</p> <p>（2）職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感）</p> <p>仕事にやりがいを持ち責任感を持って子どもひとり一人にあった保育を実践し、常に向上心を持って欲しい。</p>

調査対象

保育園に通っている園児16世帯17人に対して調査を行った。同一保育園に2名以上の園児を預けている場合には、年齢の一番低い園児に対して回答して頂いた。

調査方法

保護者に、封入したアンケート用紙を回収ボックスに投函願ひ、回収ボックスごと回収したうえで集計した。傾向を掴むために、各問い別のグラフを用い分析し、保護者の属性でもある勤務形態(常勤勤務とそれ以外)の比率を把握することで自由意見などのバラツキも確認できた。

利用者総数	17
利用者家族総数(世帯)	16
共通評価項目による調査対象者数	16
共通評価項目による調査の有効回答者数	11
利用者家族総数に対する回答者割合(%)	68.8

利用者調査全体のコメント

総合的な感想として園に対する満足度は、「大変満足」36.4%、「満足」63.6%の計100.0%であった。

自由意見では、「いつも室内がきれいです」「保護者の相談や質問にすぐ答えてくれます」「園で過ごしている様子をいつも細かく伝えてくれます」など、子どもや保護者への配慮など職員の対応、日常の保育などに対する感謝の声が寄せられている。向上または検討を望む意見としては、保護者とのコミュニケーションに関することや保育内容、職員の子どもや保護者への対応、設備に関する事など、回答者個々の考え方や気になる点が寄せられている。設問別では、「心身の発達」「興味や関心」「食事」「自然や社会との関わり」「安全対策」「行事日程」「信頼関係」「整理整頓」「接遇」「病気やけが」「気持ちの尊重」「プライバシーの保護」などの17問中12問が80%以上の支持を得ており、50%を下回ったのは「苦情窓口」の1問である。それ以外の設問は50%台前半～70%台後半の支持を得ている。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	11	0	0	0
「はい」の回答は100.0%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	10	1	0	0
「はい」の回答は100.0%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	11	0	0	0
「はい」の回答は100.0%であった。 自由意見では、「食べているところ、保育士の方が子どもにあげているところを見たことがないので、見たいです」という意見が寄せられていた。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	10	0	0	1
「はい」の回答は90.9%、「どちらともいえない」の回答は9.1%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	9	2	0	0
「はい」の回答は63.6%、「どちらともいえない」の回答は9.1%、「いいえ」の回答は9.1%、「無回答・非該当」の回答は18.2%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	10	1	0	0
「はい」の回答は81.8%、「どちらともいえない」の回答は18.2%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	10	1	0	0
「はい」の回答は81.8%、「どちらともいえない」の回答は9.1%、「無回答・非該当」の回答は9.1%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	11	0	0	0
「はい」の回答は90.9%、「無回答・非該当」の回答は9.1%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	11	0	0	0
「はい」の回答は100.0%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	11	0	0	0
「はい」の回答は90.9%、「どちらともいえない」の回答は9.1%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	11	0	0	0
「はい」の回答は81.8%、「どちらともいえない」の回答は9.1%、「無回答・非該当」の回答は9.1%であった。 自由意見では、「必ず教えてくれています」という声が寄せられていた。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	11	0	0	0
「はい」の回答は63.6%、「どちらともいえない」の回答は9.1%、「無回答・非該当」の回答は27.3%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	11	0	0	0
「はい」の回答は100.0%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	11	0	0	0
「はい」の回答は90.9%、「無回答・非該当」の回答は9.1%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	9	1	0	1
「はい」の回答は72.7%、「どちらともいえない」の回答は18.2%、「無回答・非該当」の回答は9.1%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	11	0	0	0
「はい」の回答は72.7%、「どちらともいえない」の回答は18.2%、「無回答・非該当」の回答は9.1%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。				
17. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	5	5	0	1
「はい」の回答は45.5%、「どちらともいえない」の回答は36.4%、「無回答・非該当」の回答は18.2%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。				

II サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1~3、6-5~6)

No.	共通評価項目		
サブカテゴリ1			
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	4/4
評価項目1		評点(0000)	
利用希望者等に対してサービスの情報を提供している			
評価	標準項目		
確認済み	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している		
確認済み	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている		
確認済み	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している		
確認済み	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している		
サブカテゴリ1の講評			
<p>園の情報はホームページや園の概要などで提供している</p> <p>入園や見学などの利用希望者への情報は、園のホームページや入園ガイド、Facebookなどから入手できる。園のホームページには、所在地の地図や提携小児科医、歯科医の情報が掲載されている。Facebookでは、園の掲示板が開設されており、ID、PASSによる利用希望者が参加できる形となっている。</p> <p>提供する情報は保護者が必要と思う内容が簡潔に表現されている</p> <p>利用希望者などの特性(外国籍など)を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにするために、状況によりルビをふるなどして対応している。日本語の理解が難しい方に対しては、イラストや写真を活用した対応が考えられている。園での対応が難しい場合には本部や姉妹園に相談し対応することを考えている。筆談などの対応や身振り手振りなども交えながら説明している。</p> <p>園の環境や子どもの様子などを詳しく伝えられるように見学者の案内が行われている</p> <p>利用希望者などの問い合わせや見学の要望に関しては、園の状況を含めて柔軟な対応をしている。乳児クラスの食事の様子と幼児クラスの遊びの様子を見ることができる午前10時ぐらいの時間帯を薦めているが、午後からでも受け入れている。見学の際には離乳食体験のチラシの配布と体験退場日会の写真が用意されており、室内や園庭の環境についてなど、園長や主任が案内しながら詳しく伝えられ、見学者の個人情報も必要最小限にとどめている。園の特徴として、小規模の家庭的な保育園であることを説明されている。</p>			

		サブカテゴリ-2		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	6/6
2	サービスの開始・終了時の対応				
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている					評点(〇〇〇)
評価		標準項目			
確認済み	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している				
確認済み	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている				
確認済み	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している				
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている					評点(〇〇〇)
評価		標準項目			
確認済み	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している				
確認済み	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している				
確認済み	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている				
サブカテゴリ-2の講評					
<p>園のしおりには園生活に関する情報が網羅されている</p> <p>保育の開始にあたり、基本的ルールや重要事項などに関しては、入園面接で説明が行われ、園のしおりに沿って説明されている。園のしおりには、理念や園目標などの保育内容や運営面での内容のほかに保護者から質問の多い事項に関する内容も加えられており、園生活を送るにあたっての必要な事項が網羅されている。内容については書類にて説明項目に関する同意の確認が行われている。サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認した内容は児童票に追記して保育士に周知されている。</p> <p>徐々に保育園に慣れていけるような時間の調整や環境の配慮をしている</p> <p>入園直後の子どもの不安やストレスが軽減されるように、慣らし保育(徐々に保育時間を延ばしていく)の実施を薦めており、子どもに無理のないような状況に応じて実施している。入園当初から担任が受け入れできるように、担当保育士がシフトを調整して対応している。保護者には園での子どもの様子が伝わるように、一人一人に声をかけ、家庭での生活リズムなどをもとに無理なく園に慣れていけるように配慮している。入園後は連絡帳に子どもの様子を記すことで保護者の不安を軽減している。</p> <p>子どもや保護者の転園による支援の継続性に関する取り組みが行われている</p> <p>転園の際に子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮するために、連携先の保育園の入所意向確認書に記入してもらい選択してもらっている。転園が決まり次第、連携園で個別面談が行われ、転園先での慣らし保育の予定を事前に知らせている。退園児には、誕生日カードや制作物などを渡している。</p>					

評価項目1
定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している 評点(〇〇〇)

評価	標準項目
確認済み	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している
確認済み	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している
確認済み	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている

評価項目2
全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している 評点(〇〇〇〇〇)

評価	標準項目
確認済み	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している
確認済み	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、作成、見直しをしている
確認済み	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている
確認済み	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している
確認済み	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直しをしている

評価項目3
子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している 評点(〇〇)

評価	標準項目
確認済み	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある
確認済み	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している

評価項目4
子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している 評点(〇〇)

評価	標準項目
確認済み	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している
確認済み	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している

サブカテゴリ-3の講評

全体的な計画をもとに子どもの状況合わせた年間指導計画を作成している
子どもの状況に応じた計画を作成するために、園独自の全体的な計画をもとに、年齢や発達状況に合わせた年間指導計画を作成している。具体的な保育活動については週案の中で表現されている。日または月ごとに心身の状況について記録を取り、全職員が共有している。把握した家庭での様子は記録に残し次月に反映している。指導計画は、毎月末に実施している指導計画会議で見直しや修正などを確認し、必ず園長が検討や見直しを行っている。

子どもや保護者の情報は、指導計画会議などを実施し全職員が共有している
計画の内容や個人の記録を、支援を担当する全職員が共有し活用するために、毎月行われる指導計画会議で、その月の子どもの姿や個別に必要な情報を報告し、記録して共有している。非常勤職員へは会議録を見せ、わからない所などは園長が説明している。子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を共有するために、定例会議や必要に応じて職員会議や指導計画会議で報告され周知されている。毎日の朝礼と連絡ノートに職員体制や子どもに関する連絡事項などを記入して閲覧できるようにし、閲覧後に名前に確認のしるしを付けている。

サブカテゴリ-5

5 プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重 サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5

評価項目1
子どものプライバシー保護を徹底している 評点(〇〇)

評価	標準項目
確認済み	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている
確認済み	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている

評価項目2
サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している 評点(〇〇〇)

評価	標準項目
確認済み	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している
確認済み	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている
確認済み	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている

サブカテゴリ-5の講評

羞恥心に配慮した設置や着替えの仕方の指導をしている
 子どもに関する情報に関しては、入園説明の際に個人情報の取り扱いに関する文書の説明、確認が行われている。また、第三者評価が入る場合などには掲示にて知らせ、確認が行われている。さらに、職員に対しても、個人情報に関する外部研修や内部でも意識を高める取り組みが積極的に行われている。子どもの羞恥心に配慮した支援を行うための取組として、水遊びを行う際には外部からの視線に配慮してウッドデッキの高さを調整して、個別にシャワーや着替えの場所が確保されている。また、水遊びは、水着では無く、肌着を着せて行っている。

挨拶や声の大きさ、話し方など基本となる姿勢について職員間で確認している
 日常の保育の中で子ども一人一人を尊重するために、保育理念に基づいて作成された全体的な計画を全職員で確認している。入園面接時の聞き取りや保護者との毎日のやり取り、連絡帳から家庭での状況などを把握し、一人一人に合った生活習慣や、価値観を理解し対応している。職員が相互に日常の言動を振り返るために日々の保育で気付いたことや意見が言い合える関係を大切に、何かあれば体制会議や職員会議で子どもへの対応について検討を行っている。また、挨拶や声の大きさ、話し方、聞き方など基本となる姿勢について職員間で確認している。

チェックシートなどを活用して、虐待防止について理解を深めている
 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて理解を深めるために、自治体からの冊子やポスターなどが配布された機会に、全職員が参加する職員会議で読み合わせやチェックシートをして学んでいる。虐待を疑うケースを発見した時には、子ども虐待防止対応マニュアルに従い、行政窓口や警察、児童相談所など、各関係機関と適切な対応ができるしくみを整えている。

サブカテゴリ-6		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	5/5
6 事業所業務の標準化			
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
確認済み	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている		
確認済み	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている		
確認済み	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している		
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
確認済み	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている		
確認済み	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている		
サブカテゴリ-6の講評			
<p>手順書が整備され、それをもとに園の手順書がつくられ、保育に活かされている</p> <p>法人のマニュアルがあり、それに基づいて自園独自のマニュアル、手順書を作成しており、各業務の内容を明確化している。園の保育が定められた基本事項や手順などに沿っているかどうか定期的に点検・見直しをして、日常業務の点検にも活用し、変更があった際は、会議などで承認を得て、手順書を書き換えている。職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書などを活用し、手順などを確認を行っている。</p> <p>保育の基本事項や手順を保護者の意向や職員の気づきを入れ適宜見直している</p> <p>年間計画や各保育計画の振り返りを行い、反省点や改善点を話し合い、課題を抽出すると共に、各行事係などがそれぞれ担当分野のサービスの向上を行うための改善事項を盛り込んでいる。保育の基本事項や手順などの見直しにあたり、子どもの状態に合わせて、行事などで、保護者からの感想や連絡帳、日々の会話などを参考にしている。職員一人一人が工夫・改善したサービス事例などをもとに、保育の基本事項や手順などの改善に取り組み、職員がクラス、部門、担当者、職員会議などの中で意見交換している。</p> <p>職員会議での確認や相談や研修などで、一定の知識や技術を身につけている</p> <p>打ち合わせや会議などの機会を通じて、サービスの基本事項や手順などが全職員に行き渡るように、日々の体制会議は可能な限り多くの職員が参加している。職員会議については、会議録に全員が読んだことを示すチェックをしている。職員が一定レベルの知識や技術を学べるように、園内研修をはじめ外部研修への参加を進めている。全職員が協力して保育を行い、必要なところは園長、主任が助言などを行っている。職員は、わからないことが起きた際に、指導者や先輩などに相談し、職員会議などで話し合っている。</p>			

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

サービスの実施項目		サブカテゴリー4	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	35 / 35
1. 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている		評点(〇〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目			
確認済み	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている			
確認済み	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している			
確認済み	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している			
確認済み	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している			
確認済み	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている			
確認済み	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している			
評価項目1の講評				
<p>職員も環境の一部として捉え、子どもたちの遊びが豊かなものになるよう工夫している</p> <p>保育室は、子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち遊びが展開できるよう、遊びごとにコーナー分けをして環境設定をしている。コーナーごとに保育者が子どもたちに寄り添い、遊びを見守りながら遊びの幅が広がる言葉がけを必要に応じて行っている。外遊びの際にも、黄色の葉っぱはどこかななどの問いかけによって子どもたちの興味を持たせたり、子どもの表情やしぐさから思いを受け止めて意欲を高められたいりするよう関わりを行い、職員も環境の一部として捉え子どもたちの遊びが豊かなものになるよう工夫している。</p> <p>年齢の違いがあっても互いを尊重する心が育つよう支援している</p> <p>合同保育の中でのふれあい遊びや保育者の言葉がけにより、年齢の違いがあっても一緒に遊んだり年下の子どもを可愛がったり、おもちゃを貸してあげたりできる様に保育者が促すことによって年齢の違いがあっても互いを尊重する心が育つよう支援している。また、年下の子どもが年上のどもの真似をしてしぐさや言葉で表現する姿も見られており、お互いの成長の過程の中で憧れの気持ちやいたわりの気持ちを育んでいる。</p> <p>子ども同士のトラブルに対しては、子どもの気持ちに寄り添いながら対応している</p> <p>発達の過程で生じる子ども同士のトラブルに対しては、トラブルになる過程の前のことを言葉で整理しお互いの気持ちを受け止めた上で、子どもにわかってもらえるように自分の気持ちを相手に伝えるように促したり、保育士が相手の気持ちを代弁したり、子どもの気持ちに寄り添いながら対応している。保護者に対しても、入園面接や保護者会などで子どもの発達段階で起きる大切な経験であることを伝えており、トラブルが起きてしまった時にはなぜそうなってしまったのかなど、きちんと報告を行っている。</p>				

2 評価項目2		標準項目	評点(0000)
評価	子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている		
確認済み	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している		
確認済み	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している		
確認済み	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している		
確認済み	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている		
評価項目2の講評			
<p>保護者とのコミュニケーションを大切にし、登降園時には子どもの情報を共有している 登園時には、子どもの体調や前日の睡眠状況、機嫌などについて保護者に連絡ノートや口頭で確認を行い、いつもと違うことなどがあった場合には、朝の職員連絡ノートに記入し、朝礼時に全職員が把握している。子ども一人一人に合わせた保育を行うことに努めており、その日の様子は連絡ノートに記入し、さらに特別なことがある場合には降園時に保護者に直接口頭で伝えている。担当が直接会えないときは、登降園シートに記載をし、順番の職員から保護者に伝える仕組みになっている。</p> <p>基本的な生活習慣の獲得は、保護者と情報共有しながら発達の状態に応じて行っている 基本的な生活習慣の獲得に向け、食事は年齢によって掴み食べの練習やスプーンの持ち方・使い方を保育士が側について支援している。また、モグモグなどの言葉を使ってくちを分かりやすく動かせるように伝えている。トイレトレーニングは、オムツ替えの時に声掛けしながら気持ち悪いから変えようねなどと伝えることから始め、無理強いすることなく保護者と連携を図りながら進めている。着替えも自分でできるようにズボンやシャツの向きなどを保育士が確認してあげながら、できないところは手伝い、子どもの自信や意欲につながるよう支援している</p> <p>休息や午睡は子ども一人一人の状況に応じて対応している 休息や午睡の長さや時間帯は、0歳児クラスは午前中の睡眠や子どもの月齢によって対応している。また体調が悪い時や疲れが見られる時は、個々に合わせて睡眠の時間帯を調整している。睡眠中に起こるリスクの一つである乳幼児突然死症候群(SIDS)に備え、午睡チェック表を用いて、0歳児クラスは5分ごと、2歳児クラスは10分ごとにタイマーをセットして行っている。また、疲れが見られるときには早めに給食を食べたりなど、休憩を長めにとるような配慮も行っている。</p>			

3 評価項目3

日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している

評点(000000)

評価	標準項目
確認済み	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている
確認済み	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している
確認済み	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉による伝え合いを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している
確認済み	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている
確認済み	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている
確認済み	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している

評価項目3の講評

コーナーごとに環境を整え、遊びこめる時間と空間の工夫をしている

ままごとや絵本、車など、それぞれコーナーごとに環境を整え、おもちゃ箱にも写真を貼って片付けやすい工夫をし、子どもたち自ら好きなおもちゃを取りやすいように設定をしている。また、静かに遊べるように牛乳パックで作った長椅子も利用しながら家庭に近い空間作りをすることで、落ち着いた過ごせるように工夫している。0歳児クラスはクッションマットを敷いて転倒防止をし、寝ていても視線に入るように天井からおもちゃの飾りをぶら下げて楽しめるようにし、コーナーごとに職員がついて寄り添いながら状況に応じて言葉がけを行っている。

年齢に合った関わり方を行うことで、状況に合った行動ができるよう支援している

子どもが、集団活動に主体的に関われるように、例えば順番に手を洗おうねなどの言葉がけとともに、2歳児だったら、並ぶしるしの所で待ったり、1歳児だったら椅子に座って手遊びをしたりしながら順番を待つなど年齢に合った関わり方を繰り返し行うことで状況に合った行動ができるよう支援している。簡単な遊びの中にルールを決めて、みんなで一つの遊びを楽しめるように職員が見本を見せたり、言葉で伝えたりして子どもの表情をよく見て何を伝えたいのかを感じ取りながら、時には代弁をして集団活動を楽しめるように援助している。

積極的に散歩に出かけ、季節の移り変わりなどを感じとることができる活動を行っている

天気の良い日は積極的に散歩に出かけ、例えば近隣の畑や田んぼでは、オタマジャクシやカエルを観察して生き物の成長を見たり、畑に咲いているナスやピーマン、ひまわりなどを見たり、季節の移り変わりを感じることができる活動を行っている。子どもたちは、咲いている花や野菜に興味をもち、友だちとの会話を楽しむ姿も見られている。園の掲示板には近隣の公園を写真付きで紹介しているお散歩マップが掲示されており、保護者に向けても情報を伝えている。

4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
確認済み	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	
確認済み	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	
確認済み	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	
評価項目4の講評		
<p>子どもたちが行事に向けて楽しみな気持ちが育まれるよう取り組んでいる 行事の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう、例えば散歩に出かけた際に、クリスマスの飾りを見かけると、「綺麗だね」「サンタさん保育園に来るかな」などの話を子どもたちと楽しみ、クリスマスを想像しながらクリスマスツリーを制作している。事前準備の時から子どもが楽しみにできるように歌や、絵本などで分かりやすく伝えることで、子どもたちが行事に向けて楽しみな気持ちが育まれるよう取り組んでいる。</p> <p>日常の保育の中で歌や踊りを楽しみながら行事に繋げている お別れ会では、事前に歌の練習や会場を装飾する輪飾りの制作などを行い、みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事として取り組んでいる。卒園となる2歳児の気持ちに寄り添い日常の保育の中で歌や踊りを楽しみながら「楽しかった」と思えるような会を作りあげている。行事の実施にあたっては、0～2歳児の子どもたちが集中して参加できるような時間配分と一緒に楽しめるような計画作成に努め、行事の由来や季節の歌などを大切に伝えている。</p> <p>子どもが意欲的に行事などに取り組めるよう、保護者の理解や協力を得ている 子どもが意欲的に行事などに取り組めるよう、七夕祭りでは保護者に事前に協力をお願いし、短冊に保護者の願いや子どもの願いを書いてもらい、しばらく園で飾った後に七夕の前日に笹に子どもたちが作った飾りと一緒に持ち帰り、自宅でも七夕の雰囲気を楽しんでもらえるよう取り組んでいる。園では一年間を通して色々な伝承行事などに取り組み、子どもたちの様子を写真で掲示したり、Facebookで配信したり、保護者が参加しない行事の子どもの様子なども共有できるよう努めている。</p>		

5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
確認済み	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	
確認済み	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	
評価項目5の講評		
<p>疲れや不安な気持ちがないか配慮しながら長時間保育を行っている</p> <p>保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう、朝早く登園している子どもは、午前中から眠たくなってしまふことがあるため、ベッドで寝たりラックで横になってくつろいだりできる環境を整えている。また、少し離れた静かな環境で睡眠をとったり、慣れない子どもは、おんぶで寝たりすることで安心できるように配慮をしている。一人一人に寄り添い、ゆったりとした雰囲気の中で時間が過ごせるよう、疲れや不安な気持ちがないか配慮しながら長時間保育を行っている。</p> <p>保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている</p> <p>朝・夕の合同保育時間、日中のクラス保育時間それぞれの時間を決め、子どもが興味や関心を持って活動できるよう、1日のスケジュールを組み立てている。夕方の合同保育の中でお迎えが更に遅くなってしまふ子どもたちには、立ち乗りバギーに乗って園周辺の散歩や机上遊びを行うなど、子どもに合わせて工夫している。保育環境についても、一つの場所にこだわらず、ウッドデッキや部屋の場所を変えて気分転換を図り、保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている。</p>		
6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
確認済み	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	
確認済み	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	
確認済み	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	
確認済み	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	
評価項目6の講評		
<p>子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している</p> <p>子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるよう、食事を取るスペースを十分確保して、食事の途中で保育士が立つことがないように準備を行い、食べる前にはみんなで一緒に「いただきます」と言ってから食べている。食が細い子どもには、始めから量を調節して完食できる喜びをもつ工夫もしている。苦手な食べ物があっても無理はせず、食べて見ようかなと思うような言葉かけを行い、一口食べたことをたくさんほめてあげることで自信につなげていき、子どもが食事の時間を楽しみと感じる支援を行っている。</p> <p>保育士と調理室の職員が連携し、メニューや味付けなどに工夫を凝らしている</p> <p>園の食事は、職員で献立チェックを行い、前回の給食の人気メニューや食べづらかったメニュー、調理の工夫面などについて給食会議で検討している。味付けは薄味を心掛け、子どもたちが家庭で食べ慣れている食材を使用している。また、新しい献立を取り入れて和、洋、中の献立が重ならないようにし、七夕やクリスマス会など、季節に添った食材で子どもが目でも楽しめるように工夫している。アレルギー食の提供については、毎食前に調理職員、保育士でダブルチェックを行っており、おぼんや食器、スプーンなども色を変え誤食などの事故を防止している。</p> <p>食育年間計画をもとに、子どもたちが興味・関心をもつ食育体験を多く行っている</p> <p>園では、各年齢に沿った食育年間計画を立て、子どもと保護者に向けて食育活動を行っている。季節の旬の食材や食事のマナー、調理体験など、食についての関心を深めるための取組を取り入れている。例えば、子どもたちがスーパーで夏の野菜のトウモロコシを購入し、持ち帰ったトウモロコシの匂いを嗅いだり、皮をむいて食べられるようになるまでの話を栄養士から聞いたり、子どもたち自らで皮むきを体験しおやつの時間にみんなでトウモロコシを食べるまでの食育体験を行っており、子どもたちが興味・関心をもつ取組を多く行っている。</p>		

7 評価項目7		評点(〇〇〇)
子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		
評価	標準項目	
確認済み	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	
確認済み	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	
確認済み	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	
評価項目7の講評		
<p>子どもたちが安全に過ごせるように、適切な言葉がけを行っている</p> <p>年間保健計画をもとに、子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している。けがに関しては、日々の保育の中で一つ一つ丁寧に説明を行い、「走ったら友だちとぶつかって痛くなっちゃうから走らないよ」「おもちゃを投げると友だちにぶつかるから大切にしようね」など、安全に過ごせるように言葉がけをしている。また、つかまり立ちや歩き始めたばかりの子どもは、目を離さず付き添い、保育士は万が一を考えて行動することを心掛けている。</p> <p>保護者と連携をとって、子ども一人一人の健康維持に向けて取り組んでいる</p> <p>入園する時には健康の記録や生活状況を保護者から提出してもらい、職員が把握している。日々の健康面は連絡帳や口頭でのやり取りで把握し、子どもの体調がすぐれないときは体温をこまめに測り、少しでも様子の変化があった時には、保護者に連絡を入れ、場合には連携医に受診する体制も整えている。乳幼児突然死症候群の予防に関しては、午睡チェック表をもとに呼吸や体の向きなどを0歳児は5分おき、1・2歳児は10分おきに確認し、うつぶせ寝になってしまう子どもは保護者に伝え、自宅でも仰向け寝の習慣づけをお願いしている。</p>		
8 評価項目8		評点(〇〇〇〇〇)
保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		
評価	標準項目	
確認済み	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	
確認済み	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	
確認済み	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	
確認済み	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	
確認済み	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	
評価項目8の講評		
<p>保護者には、子育てや就労などの個々の事情に配慮して支援を行っている</p> <p>保護者の就労状況や勤務地、通勤経路を職員が把握し、電車の遅れや、残業、迎えに来る人の変更も電話での連絡で柔軟に対応している。産休中の保護者に対して、短時間で保育を行っており、仕事が休みで保護者が病院受診などの時は、その時間子どもを預かることもしている。また、顔写真・名前・続柄を登録し、園が渡すストラップ着用で両親以外の登降園が可能となっており、急な迎えの変更がしやすくなっている。</p> <p>子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取組を行っている</p> <p>毎月の園だよりでは、クラスごとの様子を記載しその月ごとに準備するものや、気候に合わせた洋服の準備や持ち物などが分かりやすく記されている。体調に関してもほけんだよりや給食だよりで季節にあった内容を知らせ、保護者と園で共通認識をもった対応ができています。また、例年ならば年2回保護者会を実施し、クラス別に行うことで保護者同士の自己紹介や同じ年齢の子どもたちの悩みやクラスの様子を伝えたり質問したりできるようにし、保護者同士が交流できる機会も設けている。</p>		

9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
確認済み	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	
確認済み	2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	
評価項目9の講評		
<p>地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を設けている</p> <p>天気の良い日には散歩して公園に行き、地域の人が遊んでいたら挨拶や言葉がけをしている。コミュニティセンターの利用では、絵本を楽しんだり、滑り台を滑ったり、気候や子どもの体調を考慮してゆったりと過ごすことができている。また、近くの消防署に行き救急車の見学や消防自動車に乗せてもらうなど、子どもたちが多様な体験ができるような交流をしている。近隣の連携園へは、園庭開放で遊びに行き、同じ年齢や年上の子どもの交流も行っている。</p> <p>地域貢献活動を通して、子どもたちがさまざまな人々と交流を持つ機会を作っている</p> <p>例年、子どもたちは地域の高齢者施設に出向き、ダンスや歌を披露したり、プレゼント交換を行ったり、世代間交流を行っている。また、園でのイベントである「お楽しみ会」に地域の親子に参加を呼び掛け、ボランティアの出し物を一緒に楽しんだり、「お誕生日会」に親子で参加してもらい誕生日を一緒に祝ったりするなど、地域貢献活動を通して、子どもたちがさまざまな人々と交流を持ち、社会性を豊かにする活動を行っている。</p>		

Ⅲ 利用者保護に関する項目

利用者保護に関する項目		標準項目実施状況	9/9
1 評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている			
評価		標準項目	
確認済み	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を慮慮なく利用できることを、利用者に伝えている		
確認済み	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある		
2 評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている			
評価		標準項目	
確認済み	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している		
確認済み	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている		
3 評価項目3 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる			
評価		標準項目	
確認済み	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている		
確認済み	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている		
確認できていない	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している		
確認済み	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる		
確認済み	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる		
利用者保護の講評(※利用者保護の内容から3つ(必須)記載してください)			
<p>登降園時の職員との会話や連絡ノートや個別面談などで利用者意向の把握に努めている</p> <p>職員と保護者の方が密に連絡を取り合い保護者の方のご意見を聞いている。また連絡ノートや個別面談で必要に応じて記入して頂いている。保育室廊下には苦情対応に関することを紙面で掲示している。その中には第三者委員の方のお名前も記載して頂いて園の運営委員会にも参加している。苦情受付は主任が行い解決は園長、園内で解決できない場合は第三者委員の方が参加することとしている。</p> <p>園長の指導のもと、虐待防止対策に取り組んでいる</p> <p>保護者や子どもに対する言葉遣いや態度について、虐待チェックシートを毎月記入し、子どもの表情、様子をしっかりと見ていき小さなことでも見逃さないようにチェックし職員会議でも家庭の様子、子どもの様子を全職員が把握できる様にしている。園内の様子は防犯カメラ設置により、常に事務所にて確認できる。また市の担当者とは月に一度は連絡を取っている。虐待に対しての防止対策として、虐待防止マニュアルを活用し、園内に備え付け保護者も閲覧している。</p> <p>事業継続計画の、具体的な策定に取り組んでいくことが期待される</p> <p>入園時には重要事項説明書、利用規約、園のしおりで保護者の方にしっかり説明し連絡が取れるように配信サービス、園PC、園携帯電話に登録して頂いている。毎月行っている避難訓練、不審者訓練を行っていることも園だよりにてお知らせしている。保護者の方には年に一度は引き取り訓練を実施し参加して頂いている。事故・ヒヤリハット報告書をもとに、再発防止対策がなされています。なお、事業継続計画(BCP)の作成はこれからの課題として挙げられていることから、構想から具体的な計画化と作成に取り組んでいくことが期待される。</p>			

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-3	日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるように工夫している
タイトル①	コロナ禍のなか在宅の子育て支援の取組として、手づくり玩具の育児支援を行っている	
内容①	<p>コロナ禍による休園中の在宅子育て家庭への支援として、保育士の専門性を活かした手づくり玩具の提供を行っている。職員の在宅勤務中や休業中に、保護者の育児に役立つことを検討し考案された取組として、評価できる。今後も保育士・調理師などの専門性を活かした技能や知識、保育への考え方などを理解につなげ、職員間で担当以外のクラスの子どもの情報も共有するという意識も高まってきている。一人一人の子どもの発達や気持ちを受容して、子どもに寄り添った援助を目指すとともに、園全体で子どもの状況を共有しながら見守る保育が実践されている。</p>	

No. 特に良いと思う点	
1	<p>タイトル 「心豊かなエコ環境と優しい地域社会に生き生きと共生する子どもを育む」に向けて様々な地域交流活動に取り組んでいる</p>
	<p>内容 園は、地域の子育て世代に向けて、育児相談や保育園体験などの子育て支援活動や子どもが好きな人や将来子どもと関わる仕事を目指している人などに向けたボランティア活動の募集など、積極的に地域貢献活動を行っている。近隣住民の畑で採れた野菜をもらったり、みかん狩りをさせてもらったり、近隣住民との関わりも多く持っている。消防署との交流では、救急車や消防自動車の見学などを行っており、「心豊かなエコ環境と優しい地域社会に生き生きと共生する子どもを育む」に向けて様々な地域交流活動に取り組み、地域に根付いた園運営が行われている。</p>
2	<p>タイトル 近隣の公園や牧場、畑など自然豊かな環境を活かし、積極的に戸外活動に取り組んでいる</p>
	<p>内容 園の周辺には公園が沢山あり、天気の良い日は公園や牧場、畑、田んぼなどに行き、季節の花や野菜、牛や羊、鶏などの動物や昆虫などの観察をして季節の移り変わりや自然を感じられるように戸外活動を多く取り入れている。また、園内のウッドデッキでは、プール遊びや色水遊び、氷を浮かべたりと夏ならではの遊びを楽しんだり、子どもたちの気分転換となるようシャボン玉で遊んだり、戸外で絵本を読んだりしている。子どもたちが興味・関心をもって多様な活動ができるよう積極的に戸外活動に取り組んでいる。</p>
No. 今後の課題と思われる点	
1	<p>タイトル 全体的な計画のより一層の充実が図られており、保護者と子育ての視点を共有するための書面の検討や見直しに期待したい</p>
	<p>内容 当園では写真を活用した紙面の掲示で保育の見える化に努めているが、個別計画のわかりやすい説明の面では、0～2歳児と支援を要する子どもについては、毎月一人一人の状況に応じた個別指導計画が作成されているので、今後は子どもの発達や成長を共に確認しながら子育ての視点を共有するための書面を活用した説明方法の検討に期待したい。全体的な計画については見直しを進め、保育所保育指針をもとに、養護と教育の項目に分けて作成されており、保護者支援や地域支援、特色ある保育なども加えることで、より一層の充実が図られている。</p>
2	<p>タイトル 安全点検チェックリストで定期点検する等により事故の未然防止を図るとともに、BCPを策定して災害などに備えることが望めます</p>
	<p>内容 子どもたちが安心・安全な環境の中で伸び伸びと過ごせることを大切にしています。災害時は時差退社表に添って職員は帰宅前、保育中、夕方保育によって対応が違うためマニュアルに添って行動する。また毎月避難訓練、不審者訓練を行い、年に一度は保護者の方に参加していただき引き取り訓練も行っている。毎月の避難訓練を実施していますが、事業継続計画(BCP)の作成が課題となっている。災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、BCPを策定し、職員、保護者等に周知し、理解して対応できるよう取り組むことが望めます。</p>